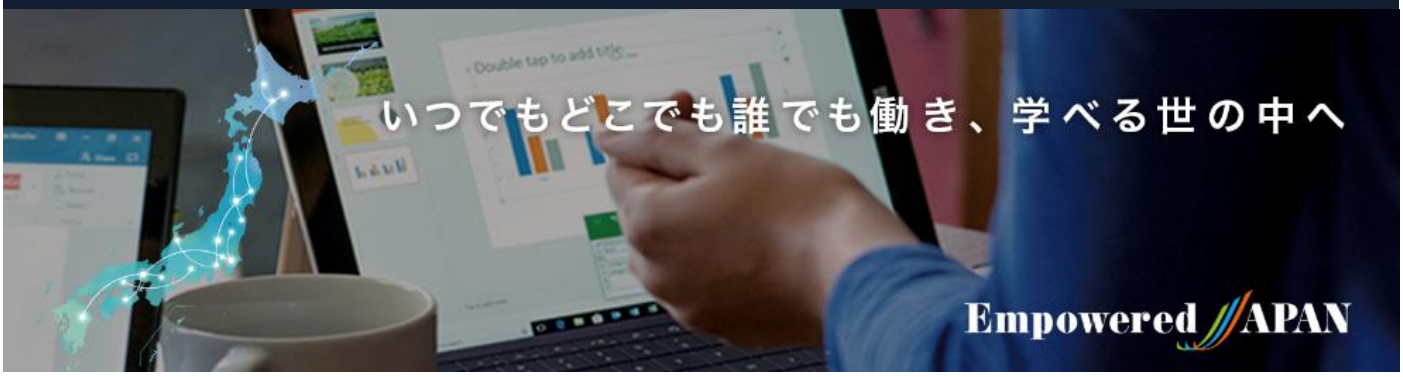
Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート



Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通した「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018 年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。この度のコロナウイルス感染拡大と 2020 年 2 月 25 日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを 2020 年 3 月 17 日より連続的に無料開催しています。

カテゴリ：行政・医療・教育機関向け

開催日時：2020 年 6 月 22 日

講師：株式会社Ｆｏｒ Ｎｅｘｔ
代表取締役社長 橋本 真弓氏

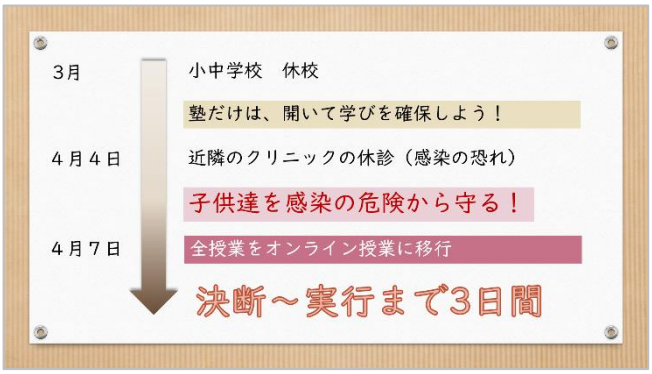
愛知県出身　1965 年生まれ
県立岩倉商業高校　情報処理科卒
就職後 3 年で結婚退職し、以後は普通の主婦としてすごす。1998 年に Windows98 のパソコンを始めて使い始める。フランチャイズの子供向けパソコン教室の講師を経て、フリーで個人向けのパソコンサポートや、経営コンサルタントのアシスタントとして IT 導入や、業務効率化の仕事を経験。
一時体調をくずし、仕事から離れるも 2012 年頃から徐々に仕事に復帰。Office 製品を得意とし、Excel、Access、Word などスキルが認められ 45 歳を過ぎてから事務職として就職。2018 年起業独立し、株式会社Ｆｏｒ Ｎｅｘｔを設立。
桃ケ丘カルチャーセンターを事業承継。
起業後は PowerPlatform 製品を中心に勉強し JapanPowerPlatformUserGroup などのコミュニティに参加している。学習塾エンカレッジ桃花台、プログラミング教室スクーミーエンジニアクラブを始め各種教室を運営。プログラミング教室では、子供向け教材を使用しない事を特徴とし、Office365 製品の中の PowerApps などを使用し、子供たちが地域の課題を解決する取り組みを行っている。
（Microsoft 公式ブログにて紹介される）

コロナ休校でも学びを止めない
小さな学習塾でもできるオンライン学習事例

コロナウイルス感染拡大に伴う小中学校の長期休校は、誰もが経験したことのない事態です。今後、感染拡大の第 2 波、第 3 波も予想されています。愛知県小牧市で小中学生向けの学習塾とプログラミング教室を主宰する橋本氏は、小中学校の休校が始まった今年 3 月の段階では「塾だけは開いて学びの場を確保しよう」と考えていたと振り返ります。

「でも、4 月に入って状況がますます悪化してきました。子どもたちを感染の危険から守る必要性を感じ、全授業をオンライン授業に移行する決断をしたのです」（橋本氏）

実行までの期間はわずか 3 日間でした。4 月 4 日に決断して保護者に告知し、5 日は生徒数分の自学自習用プリントを印刷。6 日には各家庭のデバイスを持ち寄ってもらい、Teams 利用の環境を設定しました。



「スマートフォンの扱いすら苦手なお母さんもいたので、個人アカウントを使うことは思った以上に大変でした。そこで、塾のほうで統一アカウントを用意して配布。ログインさえスムーズなら操作には問題ないことがわかりました」（橋本氏）

橋本氏の主催する小規模な学習塾には専属の講師はいません。そのため、オンライン授業用の動画などを講師が作成するのは非現実的であり、上記のプリントまたは学校の課題への取り組みを見守るスタイルでオンライン授業をスタートしました。

問題集に連動した電子黒板用教材はすでに持っていたため、オンライン授業で生かすことも考案。あとは学年ごとにチームを用意し、会議名（授業名）を設定しておくだけです。

Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

「生徒の操作は 2 つのみです。『予定表』を開いて、受ける予定の授業の『参加』をタップするだけ。すぐにオンライン授業を始められました」（橋本氏）

当然、不安はありました。子どもたちはちゃんと授業に臨んでくれるのでしょうか。「始めてみると、想像以上に真面目に取り組んでくれました。学校に行けないことや物珍しさも影響したかもしれません。中学生は 8 割以上が毎日参加しました」（橋本氏）

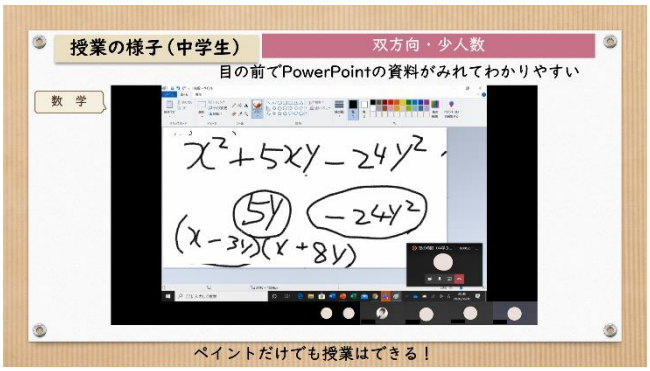
学年ごとにチームを用意し、生徒は他の学年のチームには入れないようにしたことは保護者に好評でした。保護者への連絡事項は投稿欄、授業中のちょっとした連絡はチャット、アンケートや小テストの作成と分析は Forms を活用。いずれも Teams の機能です。

なお、こうした ICT を使いつつも、見守り役の大人が最大限の配慮をしなければならないのは対面での授業と変わりません。橋本氏は、複数の子どもにリアルタイムで問題を解かせるときを例に挙げます。

「最初は、問題ができたりわかったりしたらチャットで知らせるようにしていました。しかし、そうすると毎回、同じ子が最後になってしまったりします。わかった子からいいね、マークを押すように変更し、課題が終わった人数だけを把握できるようにしました」（橋本氏）

橋本氏はオンライン授業を導入するコツは「背伸びしないこと」だと語ります。準備などで講師に負担をかけないように、既存の映像教材なども活用。PowerPoint の資料などは簡単に済ませて、ペイントやホワイトボードのアプリを使って黒板の代わりとしました。

「うちが採用したのはペイントです。操作が簡単で、先生だけが書き込めるのが安心。キレイに書くことなどにはこだわらない代わりに、いろんな色を使って楽しくわかりやすい板書を心がけました」（橋本氏）



特に休校中はオンライン授業の実施が大きな意味があったと橋本氏は振り返ります。学習習慣を維持すること、家族以外の人と話せること、などです。

「私たちは塾の立場ですが、学校というものが子どもにとってどんなに大事なのかを思い知る機会となりました。新しい知識を得るだけでなく、それを繰り返し学習することによって知識を定着しているのです。すでに覚えていることを忘れないようにするためにも、毎日 1、2 時間のオンライン授業で貢献できたと思っています」（橋本氏）

オンライン授業ならば全員が同じように板書や資料を見ることができ、教室に行く必要もありません。不登校の子どもや闘病中の子どもでも参加しやすい授業と言えるでしょう。

塾の経営面で言えば、優秀な講師の確保にも役立ちます。実際、橋本氏が実施したオンライン授業では、遠隔地に住む講師が理科の授業を担当。また、子育てのために退職予定だった講師は在宅で働くことができました。

次に、今後の取り組みについて。橋本氏は、Microsoft Planner や OneNote、PowerApps の活用を進めています。

「Planner はタスク管理アプリです。各生徒が課題をどれだけ進められているかを把握することができます。OneNote を使えば資料を貼っておけますし、質問への詳しい解説も載せておくことが可能です。成績管理アプリなどは PowerApps で自作できます」（橋本氏）

録画しておいた授業の配信で活躍するのは Stream です。以上、いずれも Teams に組み込めるため、子どもたちは Teams だけでオンライン授業を完結することができます。

成績管理アプリはプログラミング教室に来た小学校 6 年生が作ったものを採用すると橋本氏。環境さえ整えてあげれば、子どもたちのほうが直感的に ICT を使いこなせることの一例です。最後に、準備に時間をかけ過ぎずにとにかくオンライン授業をやってみることの意義を橋本氏は強調します。

「コロナ休校では、特に受験生はすごく不安な状況に置かれました。そのとき、ネットをつないだ先に先生がいるだけで救いになります。オンライン授業は完璧を目指さないでいい。やれることからやり、子どもたちの学びを止めないようにしたいものです」（橋本氏）

ピンチをチャンスに変えて、背伸びしない授業を続けていく――。橋本氏は力強く宣言して講演を締めくくりました。